

## 関西選手権第1戦スチューデントコンペティション レースレポート

大会実行委員長 滋賀県立大学 4年 永野祐大

6月16日(土),17日(日)、滋賀県彦根市松原浜で関西選手権第1戦スチューデントコンペティションを開催した。通称スッチーと略されるこのレースは毎年、梅雨の時期の開催ということから、不安定な無微風が続く過酷なレースの代名詞となっている。初日はスッチーらしい微風で、小雨の降る中なんとか2レースを消化した。2日目はスッチーらしからぬ中風域のコンディションにも恵まれ4レースを消化。2日間で最大予定数である6レースを全て消化することができた。また、参加者も総勢92名と大規模になり見応えのある大会となった。

### 6月16日(土)

1レース目、松原らしい1~2m/sの北風。スタート直前に左に振れ始め、下有利でレースが始まった。その後、風は左右に振れながらさらに弱くなっていく。微風では圧倒的な艇速を持つ滋賀県立大学3年鈴木が1位で上回航。この後には同じく滋賀県立大学3年の中村、小笹が続ぎ、1上1~3位を滋賀県立大学が独占する。風が弱まったことでロングレグとなったこのレースは県立大鈴木がダントツの1位でフィニッシュ。2位には2上で猛追を見せた学連NTの同志社大学3年内園が食い込み、3位に滋賀県立大学3年小笹となった。上位と下位の艇速差からDNFが多数出る結果となり、1レース目から激しい消耗戦となった。初日の午前はこの1本でハーバーバックがかかる。

2レース目、風は安定せず海上APが長く続いた。Z旗掲揚からおよそ1時間経過した頃から東北東1~2m/sの風が入り、この瞬間にレースが始まる。上有利で始まったシーケンスも、1レース目同様スタート直前から風は左にシフトしていく。下集団はほぼ全員がポートスタートとなり、甲南大学3年大塚、滋賀県立大学3年鈴木がスタートで飛び抜ける。そのまま風は左に振り切り1上はポートロングとなった。このレースも1上1位は鈴木。1下回航に向かうところでC旗が掲揚され、上マークが変更となる。それでも風は左に振り続け2上もポートロング。結果は鈴木が1上の順位をキープし、1位でフィニッシュ。2位には立命館大学3年西本、3位には滋賀県立大学3年津川と続いた。各選手のフィニッシュ後から雨脚が強くなり、初日のレースはこの2本で終了した。

### 6月17日(日)

初日とは打って変わってZ旗掲揚の頃には最大6m/sの風を観測し、例年とは少し違ったスッチーになる。緩やかに風は落ちるも3~5m/sの安定した北西風の中、第3レースが始まった。このレースもスタートは下有利。内園が下からポートスタートで集団から一気に抜け出した。スタートの勢いそのままにリーチパンピングでは圧倒的な艇速と安定した走り

を持つ内園が1上を1位で回航、2位には同じく学連NTの立命館2年板庇が続く。下りもそのまま順位をキープし内園、板庇が後続集団から10艇身以上開けて下回航。回航直後、板庇が勝負を仕掛けるも内園がしっかりカバーし続けた。安定しながらも細かく左右に振れる微中風の中、内園が今大会初の1位でフィニッシュ。

第4レースは上有利。順位変動が激しくなり、気持ちが高ぶっているのかゼネラルリコールとなる。仕切りなおして行われたこのレースでは3~4m/sあった風もスタート後徐々に落ち始め、1上の途中からマストパンピングをする選手が数名出始める。左に残るブローを使い、右へのシフトにうまく合わせた艇団が前を走る展開となり、京都大学3年藤本が1位で上回航、2位には鈴木、3位に津川と続く。2上でも徐々に落ちる風はマストパンピングを得意とする藤本をさらに加速させる。1上の順位をそのままに藤本が1人飛び抜けた位置でフィニッシュ。このレースではなんと同志社大学3年堀野が3本連続レディース1位でフィニッシュを果たし、2日目の午前を終えた。

残すところ2本となった第5レースは2度のゼネラルリコールとなり、ブラックフラッグルールの適用となった。コンディションは3~5m/sの北風。下有利のスタートは下1,2で中村、内園がグッドスタートを決めるも風は右にシフトし、早めに右に寄せた学連NT、関西学院大学3年の小森が優位にレースを展開する。その後も左右のシフトを使い、小森がそのまま1位でフィニッシュ。2位には板庇、3位に中村と続く。入賞圏内の立命館大学3年西本、甲南大学3年大塚も粘りを見せ、最終レースで全てが決まる。

最終レースも北の安定した3~5m/sの風が穏やかなペースで左右に振れる。スタートは下有利となりポートスタートで1人抜け出したのは中村。微中風ではやはり体重の軽い選手が前を走っていたが、1上1位は大型の代表格、板庇。上回航後にはギリギリながらアンダープレーニングも入り、板庇は他の追従を許さない。2位には中村、3位に内園が安定した走りで続く。4位は大塚、5位にはレディースの堀野が入り、壮絶な優勝、入賞争いとなった。軽量級に有利な風ということからか、レディースが全体的に前を走っていた。徐々に落ちる風とロングレグで選手の体力を容赦なく奪っていく。2下ではブローでもアンダーには入らず、大きな差が生まれにくい風域のはずが、ダントツの1位板庇はさらに後ろを引き離し、そのままフィニッシュ。2位に中村、3位に内園が集団から抜け出したままフィニッシュ。この段階で板庇の優勝が決まった。

結果は1位板庇雄馬（立命館大学2年/学連NT）、2位内園拓也（同志社大学3年/学連NT）、3位中村有希（滋賀県立大学3年）、4位津川隆寛（滋賀県立大学3年）、5位鈴木郁也（滋賀県立大学3年）、6位小森貴裕（関西学院大学3年/学連NT）、レディースクラスは1位堀野舞歩（同志社大学3年）、2位松島渚（滋賀県立大学3年）、3位飯田千智（同

志社大学3年)となった。団体の部は1位滋賀県立大学、2位立命館大学、3位京都大学となった。

悪天候が予想されていたが、2日目には安定した微中風でレースを消化することができた。無微風だけでなく、時には中風も入り例年に比べ幅広い風域での大会となったのではないだろうか。微風では琵琶湖勢の走りが目立ったが、少し風が上がると甲子園勢が前を走る展開となり選手にとってはそれぞれの課題が見えた良い大会になったことだろう。また、今大会ではRRS第2章A節10「反対タックの場合」の違反でインシデントを起こし、プロテスト対象となった選手が出た。この選手は第4章44で定められるレース中のペナルティーの履行が認められず、第5章64.1(a)に則りそのレースの失格という判決が下された。学連ではルールが曖昧にされている節があったが、近年急速に改善されている。今回の件で今後より一層ルールに則ったレースができることだろう。

最後になりましたが今回協賛を頂いた、かんとりーは一ばーさん、BIC Sportさん、彦根セーリング協会の皆様のおかげで、良い大会を無事終えることができました。ご協力ありがとうございました。

▼団体の部。真中は滋賀県立大学、左は立命館大学、右は京都大学。



▼個人の部メンズクラス。左から順番に 1~6 位。



▼個人の部レディースクラス。左から 2 位、1 位、3 位。

